

地域振興部長 説明要旨

地域振興部長の赤坂でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、地域振興部における6月議会以降の主な施策等について御説明いたします。

まず、地域づくりにつきましては、国の制度を活用し、8月1日付で「地域運営組織コーディネーター」を2名設置しました。コーディネーターが行政と地域の橋渡し役となり、地域社会を支える様々な主体が連携した住民主体の地域づくりを促進してまいります。

また、和歌山の魅力発信を行う手段として、図柄ナンバープレートの導入に取り組んでおり、現在、公募で提案いただいた図柄の審査を実施しているところです。今後、県民投票により決定し、12月に国に提案してまいります。

地価調査につきましては、7月1日を基準日として、県内213地点の標準価格を判定し、9月16日に結果を公表したところです。

県内の地価は、引き続き下落傾向にありますが、和歌山市の住宅地や商業地など、一部の地域では上昇もみられるところです。

次に、公共交通につきましては、JR紀勢本線の新宮・白浜間の利用促進を図るため、県、沿線市町村、JR西日本及び和歌山大学で構成する「紀勢本線活性化協議会 新宮白浜区間部会」において、特急「くろしお」の1日1往復の増便実証実験をはじめ、ICOCA利用によるポイント還元や校外学習等の利用に対する補助等に取り組んでおります。

引き続き、地域公共交通の維持確保及び利便性の向上を図るとともに、市町村及び各事業者と連携し、公共交通の利用促進に取り組んでまいります。

続きまして、デジタル社会の推進につきましては、昨年8月に開設しましたゲームクリエイターのためのコミュニティ「Game Grove X（ゲームグローブ クロス）」のメンバーが300名を超え、県内外の若者等による交流と研鑽が活発に展開されています。今年度末にかけて、ゲーム制作イベントや作品展示会等を開催する予定としており、eスポーツの推進と併せて実施することで、ゲームを原動力とした地域の活性化を図ってまいります。

また、ドローンは、業務効率化や安全性向上に資することから、県業務でも積極的に活用できるよう、県職員を対象とした技術向上研修を7月末から実施しているところです。

引き続き、デジタル技術の活用による地域活性化や課題解決に取り組んでまいります。

最後に観光についてでございます。

本県の魅力を広く県内外に発信するため、8月22日付けで、和歌山市出身のアーティスト、塩崎太智氏に「和歌山県観光大使」を委嘱いたしました。塩崎氏は、人気グループ「M!LK」のメンバーとして紅白歌合戦に出場されるなど、若い世代を中心に絶大な人気と発信力を誇っておられます。9月11日に委嘱式の様子をSNSで発信したところ、5日間で約20万人の方々にご視聴いただくなど、大きな反響がありました。今後も同氏の影響力を大いに活かし、本県の魅力を全国に向けて広くPRしてまいります。

インバウンドにつきましては、6月以降、中国、香港、台湾、韓国、シンガポール、タイで現地プロモーションを実施したほか、10月には県内観光事業者と旅行手配を行うランドオペレーターとの商談会を大阪におい

て開催いたします。

こうした取組を通して、国内外からのさらなる誘客を促進してまいります。

私からの御説明は以上でございます。

御審議の程、よろしくお願いいたします。